

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)（特設分野研究）

研究期間：2016～2019

課題番号：16KT0046

研究課題名（和文）アフリカにおける紛争の性格変化の基層 暴力噴出メカニズムの解明に向けて

研究課題名（英文）Backgrounds of changes in the nature of conflicts in Africa: Investigating the mechanism of large-scale violence

研究代表者

武内 進一（Takeuchi, Shinichi）

東京外国語大学・現代アフリカ地域研究センター・教授

研究者番号：60450459

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトは、アフリカ各地域を専門とする地域研究者によって遂行された。4年間の研究プロジェクトを通じて、専門地域の紛争状況の理解が進んだだけでなく、近年のアフリカにおける紛争の重要な要因であるイスラーム、および農村資源管理に関する研究が進展し、紛争との関係が明らかになった。具体的には、1990年代以降の30年間に、アフリカの紛争が、首都を巻き込んだ国家権力闘争型から、農村部を中心とするローカル紛争型へと変化してきたことが解明された。後者においては、コミュニティ間の動員が図られやすく、低強度紛争が継続する傾向がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフリカの紛争については、1990年代以降多くの研究がなされてきたが、時代的な性格変化についての議論はほとんどない。本研究プロジェクトを通じて、時代的な紛争の性格変化が、それを規定する要因（農村資源管理、イスラーム）との関係を含めて明らかになってきた。これについては大きな学術的意義を主張できる。アフリカの紛争は国際社会の重要課題であり、そこに国連平和維持部隊をはじめとした多大な資源が投入されている。本研究が明らかにした紛争の性格変化、そして暴力拡大メカニズムは、平和維持、平和構築の実践活動に役立つ、重要な社会的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：This research has focused the change in the nature of conflict in Africa. Armed conflicts occurred in Africa in the 1990s were characterized as urban-centered power struggles. Typically, they were civil wars broke out between parties pursuing to the state power. Capital cities were likely to be a battlefield as the belligerents fought for controlling the central state. This type of conflicts have recently occurred less frequently. In these years, armed conflicts continue in the Sahel region and the Eastern part of the Democratic Republic of the Congo, where main battlefields are rural areas. They have strong roots in local tensions over resources including lands and water. The local tensions are easily transformed into the large-scale inter-community violence through instigations from external actors and activities of militias. Clarifying reasons and backgrounds of the change, contributions made by this project are valuable academically as well as practically.

研究分野：地域研究

キーワード：アフリカ 紛争 地域研究 土地 イスラーム コミュニティ 資源管理 国家

1. 研究開始当初の背景

アフリカでは**1990**年代に大規模な紛争が頻発したが、**2000**年代に入ると紛争発生件数や犠牲者数は減少した。一方で、選挙暴力の頻発、土地や水など資源制約に由来する紛争の激化、テロリズムの伸張など新たな特徴が指摘されるようになった。この状況について考えることが、本研究課題の基本的な問題意識であった。

1990年代には、首都を巻き込み、武力によって政権が転覆する激しい内戦が多数観察された。エチオピア、ソマリア、ルワンダ、シエラレオネ、リベリア、コンゴ共和国など、多くのアフリカ諸国が内戦による政権崩壊を経験した。こうした大規模な紛争は、**2000**年代に入って明らかに減少した。**2010**年代に内戦によって政権が転覆した例は、中央アフリカ(**2013**年)だけである。状況は明らかに変化した。しかし、その状況を直ちにアフリカにおける政治秩序の安定化と評価できるかは疑問であった。大規模な武力紛争が減少した一方で、土地その他の資源と結びついたローカルな紛争が広がり、サヘル地域やコンゴ民主共和国東部で低強度紛争が継続していた。また、**2007**年~**2008**年のケニアで典型例に見られたように、民主化に伴って導入された選挙は頻りに暴力を引き起こした。さらに、南アフリカにおける労使紛争の激化や移民を標的とするゼノフォビアなど、新たな形の暴力が現れていた。

近年の状況は、政治秩序の安定や紛争解決というより、紛争の性格変化と呼ぶべきものと考えられた。アフリカの紛争をめぐって多くの研究が公刊されていたが、こうした紛争の性格変化を正面に据えた研究はほとんどなかった。本研究課題では、この現状認識を出発点として、紛争の変化をもたらした要因の解明を目指した。

2. 研究の目的

(1)紛争の性格変化の要因

冷戦終結後、武力紛争に対する関心が高まり、多くの研究が現れた。この背景として、実際にこの時期多くの紛争が勃発したことに加え、平和構築活動が活発化したことが挙げられる。**1991**年にブトロス=ガリー国連事務総長が刊行した『平和への課題』を契機として、平和構築に対する国際社会の取組みが活性化した。持続的な紛争後社会を創出するために、紛争そのものへの関心が高まったのである。結果として、紛争要因、持続期間、終結、といったトピックに関連して、多くの研究が刊行された。現実には、この時期アフリカではソマリア、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ共和国、リベリア、シエラレオネ、コンゴ民主共和国など、数多くの内戦が勃発した。その多くは、政権の転覆を目的とした、首都の攻防を伴う激しい紛争であった。

しかし、**2000**年代に入ると、アフリカの紛争をめぐり様相はかなり変化する。大規模な紛争は明らかに減少し、代わってソマリアのアルシャバブのようなイスラーム急進主義勢力の活動が目立つようになった。その背景には、土地や家畜をめぐるローカルな紛争があると指摘されていた。**2010**年代に入ると、サヘル南縁部やコンゴ民主共和国東部など、長期にわたって紛争が継続する地域が固定化してきた。こうした地域では、ローカルな紛争が世界市場やイスラーム急進主義勢力といったグローバルな諸力と結びつき、低強度紛争が継続する状況が生まれていた。こうした紛争の性格変化を生みだした要因を解明することが、本研究の主たる目的として設定された。

(2)暴力激化のメカニズム

特に近年、土地や家畜をめぐるローカルな紛争と大規模な紛争との関係を見ることの重要性が指摘されてきた。上述したように、武力紛争が長期にわたって継続する理由として、ローカルな紛争が重要だからである。本研究は、ローカルな紛争がどのように暴力化し、大規模な武力紛争へと転化するのか、そのメカニズムを明らかにすることも重要な課題として措定した。

3. 研究の方法

(1)紛争の展開(ケーススタディ)

本研究の基本的なアプローチは、紛争のケーススタディを重視することである。それによって、どのような性格の紛争が、いかなる理由で勃発し、拡大したかを理解することができる。個々の紛争の歴史的展開を深く理解することではじめて、紛争の性格変化や拡大メカニズムに関する議論を帰納的に導き出すことができる。その意味で、アフリカ各国の紛争より広くは政治の展開過程の研究は最も基本的なものである。本研究は地域研究者が中心のプロジェクトであり、アフリカ各国の紛争や政治過程を跡付ける事例研究が重視された。

(2)要因分析

事例研究を行う際の着眼点として、当初4つの分野(資源、政党、宗教、労働)に留意することを考えた。これは、近年のアフリカにおける紛争において、これらのトピックとの関係が重要であろうとの仮説に基づく分析方法であった。本研究の実施期間中、これら4つのトピックを等しく分析対象とするというよりは、特に資源と宗教については踏み込んだ研究を行った。これは、近年のローカルな紛争において土地や水などの資源をめぐる問題が非常に重要であり、紛争の拡大を考えるうえで宗教(特にイスラーム)を避けて通れないためである。紛争とは直接結びつかない事象であっても、農村資源やイスラームに関する分析は、本研究が目指す紛争の性格変化や暴力拡大メカニズムの解明に資すると考え、研究に注力した。

(3) 研究の統合

紛争は多様であり、その展開過程は個々に異なる。その個別性を把握することは本研究にとってきわめて重要である。一方で、アフリカの紛争には一定程度共通に見られる特徴があり、それを踏まえなければ、紛争の性格変化を捉えることはできない。本研究では、個別具体的な紛争の様相を把握したうえで、国を横断した特徴を抽出することを目標とした。

4. 研究成果

4年間の研究により、アフリカにおける紛争の性格変化の態様はかなりの程度明らかになり、また事例研究も相当に精緻化された。以下では、研究成果を4つに分類しつつ、研究分担者による代表的な成果を列挙する形で研究成果について説明する。

(1) 個別諸国の紛争、政治動向についての研究蓄積

武力紛争は単一の要因から発生するのではなく、多様な要因が結びつき、特定の政治過程のなかで発生する現象である。したがって、武力紛争を各国における政治過程の文脈を踏まえて分析する必要がある。政治的文脈から切り離して死者数や物的損害を比較しても意味がない。そのためには地域研究の手法が有効であり、研究対象国の動向を継続的に研究する必要がある。この間の研究成果においても、研究対象国の紛争や政治動向についての研究を蓄積することができた。こうして蓄積された研究を帰納することによって、アフリカ全体を視野に入れた枠組みの提示が可能になる。

本研究プロジェクトから生まれた主要な研究成果として、次のようなものが挙げられる。南アフリカについて佐藤千鶴子(2016a、2016b、2017a)、中部アフリカについて武内(2016b、2019e、2019f、2020b)、ケニアについて津田(2016a、2016b、2016c)、アルジェリアについて渡邊(2019)。

(2) アフリカにおけるイスラームと政治

近年、アフリカの紛争はサハラ砂漠の縁辺部(サヘル地域)やコンゴ民主共和国東部といった特定地域に集中する傾向がある。特に前者の場合、中東地域で勃興したイスラーム急進主義の影響が顕著であり、アルカイダやイスラム国(IS)に忠誠を誓うグループが襲撃を繰り返している。そのなかで、住民間のエスニックな対立が激化し、マリ、ブルキナファソ、ニジェール、ナイジェリア北部などの地域では治安が極度に悪化している。これは2010年代以降に急速に拡大した現象であり、現在なお研究の主眼は現状把握に向けられている。

本研究プロジェクトにおいても、イスラームに関わる問題は重視して取り組み、次のような成果を上げることができた。佐藤章(2017)、佐藤章編(2018)、佐藤千鶴子(2018c)、武内(2018b)、津田(2018)。

(3) アフリカにおける農村資源管理

近年のアフリカの紛争が、ローカルな紛争と結びついて拡大することはしばしば指摘されている。実際、サヘル地域にせよ、コンゴ民主共和国東部にせよ、紛争の根底に、特に農耕民と牧畜民の土地をめぐる争いがあることはしばしば指摘されており、サヘル地域ではトゥアレグやフルベ(プール)、コンゴ民主共和国東部ではバニャムレンゲ、バニャルワンダという牧畜を主たる生業とする人々が紛争の中核にいる。この点で、土地をはじめとする農村資源管理は紛争の性格変化を考えるうえできわめて重要である。

こうした観点から、本研究プロジェクトは、農村資源管理、とくにその政治的側面についても積極的に取り組み、次のような成果を上げることができた。武内編(2017)、Kirikoshi, Matsunami, and Takeuchi eds. (2019)、Matsunami and Takeuchi eds. (2020)、佐藤千鶴子(2017b)、Sato, C. (2018a, 2018b)、武内(2017b、2017c、2018a、2019g)、Takeuchi (2019c)、津田(2017)。

(4) アフリカ全体の動向とパターンの導出

以上の研究蓄積を踏まえつつ、個別の国や地域を超えてアフリカ全体を視野に入れた議論に繋げるよう、研究プロジェクトとして努力した。地域研究者は自分が専門とする国や地域にとどまりがちで、アフリカ全体を対象とする議論に尻込みするところがあるが、幾つかの成果を上げることができた。佐藤章(2019)、武内(2016a、2017e、2019a)はその例である。一般向けの成果としては、佐藤章(2018)、武内(2016c、2016d、2019b、2019d、2020c)を上げることができた。また、研究プロジェクトの副産物ともいえるが、地域研究の立場からの紛争研究の方法論を論じたものとして、武内(2020a)がある。

以上は、紛争の性格変化そして暴力拡大のメカニズムを解明するという本研究プロジェクトの当初の目標に鑑みて、一定の水準を達成していると考えられるが、なお満足できる水準ではない。今後も紛争の性格変化をよりクリアに説明できるよう、研究を続けていきたい。

(5) まとめ

本研究の第一の意義は、紛争の性格変化という現象を正面から取り上げたことである。研究課題提案時には仮説という色彩が濃かったが、4年間の研究のなかで、近年のアフリカの紛争の性格変化がより明確に説明できるようになった。すなわち、1990年代の紛争で顕著にみられた国

家権力をめぐる権力闘争という性格が背景に退き、土地や家畜をめぐるローカルな要因とグローバルな要因（鉱物資源や麻薬をめぐる国際市場）とが結びつき、国家の脆弱性を利用する形で紛争が深刻化するという事態が複数の地点で観察できるようになったのである。マリやブルキナファソ、そしてコンゴ民主共和国などが典型事例といえる。

紛争の性格変化が明瞭になり、事例研究が充実したことは本研究の成果だが、十分に研究が進まなかった点があることも認めざるを得ない。ここでは2点指摘する。第1に、新たな紛争のモデルを精緻化することである。新たな紛争の性格は凡そ上記のように説明できるものの、より精緻化したモデルの提示が必要だと感じている。第2に、なぜ紛争の性格が変化したのか、紛争の性格変化がどのような意味を持つのか、という点についての分析である。紛争の性格変化は、直感的にはアフリカにおける政治秩序の性格変化に関わると予想される。しかし、この点はまだ着想に過ぎず、研究をさらに深める必要があると認識している。

アフリカにおける政治秩序の性格変化についての仮説を整理しておきたい。アフリカの政治秩序を3つの時期に区分し、紛争の性格変化を捉えるというのがその要諦である。第1に、冷戦期のポストコロニアル家産制国家である。この時期、超大国は自身の陣営に属する政権を防衛するために介入したため、紛争は代理戦争の形をとった。第2に、1990年代の破綻国家である。1990年代のアフリカでは、深刻な紛争が数多く勃発した。国際社会がアフリカへの関与を手控え、国際平和活動も精緻化されていない状況の中で、国内の政治権力闘争として深刻な内戦が勃発したと考えられる。そして、第3に2000年代以降の脆弱国家における紛争である。国際社会による平和活動が強化され、政権を転覆させるような紛争は減少した。一方で、ローカルな紛争要因とグローバル市場が結びつき、低強度の紛争が局地的に継続している。この仮説を肉付けしていくことが、今後の研究の方向性と考えている。

研究プロジェクトは終了したが、以上の残された課題を考えていくことが、今後の研究の方向性となる。この4年間で紛争の事例研究はかなりの程度蓄積できたので、これからは積極的にモデル化の努力をしたい。ローカルな要因とグローバルな要因の関係を整理し、アフリカの政治秩序の性格変化として提示することが必要だと感じている。

< 研究分担者による主な研究成果 >

1. 編著書

- Kirikoshi, Hitomi, Yasuo Matsunami, and Shinichi Takeuchi (eds.) 2019. ASC-TUFS Working Papers 2018. Development, Migration, and Resources in Africa. Tokyo: African Studies Center - Tokyo University of Foreign Studies. 202pp.
- 佐藤章編 2018. 『アフリカの政治・社会変動とイスラーム』アジア経済研究所.
- 武内進一編 2017. 『現代アフリカの土地と権力』アジア経済研究所.
- 西崎文子・武内進一編 2016. 『紛争・対立・暴力 世界の地域から考える』岩波ジュニア新書.
- Matsunami, Yasuo and Shinichi Takeuchi (eds.) 2020. ASC - TUFS Working Papers 2019. Challenges of Development and Natural Resource Governance in Africa. Tokyo: African Studies Center - Tokyo University of Foreign Studies. vi+321pp. (ISBN 978-4-9910084-2-9)

2. 論文

- 佐藤章 2017. 「イスラーム主義武装勢力と西アフリカ—イスラーム・マグレブのアル=カーイダ (AQIM) と系列組織を中心に」『アフリカレポート』55: 1-13.
- 佐藤章 2019. 「「アフリカの問題のアフリカによる解決」の両義性もしくは逆説 地域機構による紛争対応能力の向上をめぐる」『国際政治』194: 79-94.
- 佐藤章 2018. 「AUの時代の紛争と和解」『改訂新版新書アフリカ史』講談社 pp.608-619.
- 佐藤千鶴子 2016. 「2016年南アフリカ地方選挙 大都市自治体を巡る攻防」『アフリカレポート』54: 135 - 141.
- 佐藤千鶴子 2016. 「南アフリカの移民・難民問題」『アジア研ワールド・トレンド』253: 20 - 23.
- 佐藤千鶴子 2017a. 「南アフリカにおける犯罪動向の推移と治安対策」『アジア研ワールド・トレンド』261: 16-19.
- 佐藤千鶴子 2017b. 「南アフリカにおける慣習的土地保有権改革をめぐる争点と課題」武内進一編 『現代アフリカの土地と権力』アジア経済研究所、pp.139-171.
- Sato, Chizuko 2018a. "Khoisan Revivalism and Land Question in Post-Apartheid South Africa," In Land Reform Revisited: Democracy, State Making and Agrarian Transformation in Post-Apartheid South Africa. Edited by Femke Brandt and Grasian Mkodzongi, Brill Publishers, pp.199-220.
- Sato, Chizuko 2018b. "Opportunities and Constraints for Black Farming in a Former South African Homeland: A Case Study of the Mooi River Irrigation Scheme, Msinga, KwaZulu-Natal, South Africa". (Land, Agriculture, and Unfinished Decolonization in Africa: Essays in Honour of Sam Moyo) African Studies Monographs, Supplementary Issue 57: 147-174
- 佐藤千鶴子 2018c. 「南アフリカにおけるムスリムの歴史的形成とアイデンティティ 西ケープ州ケープタウンを中心に」佐藤章編 『アフリカの政治・社会変動とイスラーム』アジア

- ア経済研究所 pp.36-52.
- 武内進一 2016a. 「冷戦後アフリカの紛争と紛争後 その概観」遠藤貢編(シリーズ総編者太田至)『アフリカ潜在力2 武力紛争を越える せめぎあう制度と戦略のなかで』京都大学学術出版会、pp.23-49.
- 武内進一 2016b. 「アフリカの『三選問題』 ブルンジ、ルワンダ、コンゴ共和国の事例から」『アフリカレポート』54: 73-84.
- 武内進一 2016c. 「ガバナンスで読み解く紛争と和解」『外交』38: 42-47.
- 武内進一 2016d. 「アフリカ政治の現状と課題-紛争とガバナンスの視点から」『アジア研ワールドトレンド』(特集:TICAD VIの機会にアフリカ開発を考える)No.253: 28-31.
- 武内進一 2017a. 「アフリカにおける土地政策の新展開と農村変容」武内進一編『現代アフリカの土地と権力』アジア経済研究所、pp.3-34.
- 武内進一 2017b. 「土地政策と農村変容 ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国西部」武内進一編『現代アフリカの土地と権力』アジア経済研究所、pp.259-291.
- 武内進一 2017c. 「近年のアフリカにおける土地改革と農村変容をどうとらえるか」武内進一編『現代アフリカの土地と権力』アジア経済研究所、pp.293-310.
- 武内進一 2017d. 「アフリカの土地法改革と大規模土地取引」『国際農林業協力』39(4): 2-8.
- 武内進一 2017e. 「政治 長期の視点でアフリカを理解する」遠藤貢・関谷雄一編『社会人のための現代アフリカ講義』東京大学出版会、pp.53-78.
- 武内進一 2018a. 「内戦後の土地問題とピネイロ諸原則 ルワンダ・ブルンジの比較から」『国際法外交雑誌』117(1): 181-199.
- 武内進一 2018b. 「中央アフリカ共和国のイスラーム その理解のための基礎作業」佐藤章編『アフリカの政治・社会変動とイスラーム』アジア経済研究所 pp.85-99.
- 武内進一 2019a. 「冷戦後アフリカの紛争と平和構築の課題 日本のアフリカ外交への示唆」『世界平和研究』No.220 pp.24-38.
- 武内進一 2019b. 「紛争」落合雄彦編著『アフリカ安全保障論入門』晃洋書房 pp.43-54.
- Takeuchi, Shinichi 2019c. "Land and power in Africa: The effects of recent land reform". In ASC-TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa". Eds. H. Kirikoshi, Y. Matsunami, and S. Takeuchi, Tokyo: African Studies Center - Tokyo University of Foreign Studies, pp. 63-79.
- 武内進一 2019d. 「第8回 なぜアフリカでは紛争が多いんですか?」『IDE スクエア』(コラムおしえて!知りたいたい!途上国と社会)2019年6月19日配信 pp.1-3.
https://www.ide.go.jp/Japanese/IDESquare/Column/ISQ000007/ISQ000007_008.html
- 武内進一 2019e. 「『ルワンダの奇跡』後の課題」『外交』Vol.56 (Jul./Aug.2019) pp.50-55.
- 武内進一 2019f. 「紛争後のルワンダに見る和解の可能性と課題 ガチャチャを中心に」日本心理学会監修・大淵憲一編『紛争と和解を考える 集団の心理と行動』誠信書房、pp.195-220.
- 武内進一 2019g. 「アフリカ人移民の背景にあるもの 農村社会の変容と国家建設」伊豫谷登士翁・テッサ・モーリス=スズキ・吉原直樹編『応答する<移動と場所> 21世紀の社会を読み解く』ハーベスト社、pp.213-234.
- Takeuchi, Shinichi 2019h. "Development and Developmentalism in Post-genocide Rwanda". Edited by Yusuke Takagi, Veerayooth Kanchoochat, and Tetsushi Sonobe, Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies. Singapore, Springer, pp.121-134. (xiv+185p)
- 武内進一 2020a. 「アフリカ研究者の紛争研究 日本の国際政治学と紛争研究」『国際政治』200: 23-36.
- 武内進一 2020b. 「コンゴ民主共和国の歴史と紛争 難民発生要因の見取り図」『難民ジャーナル』8: 16-33.
- 武内進一 2020c. 「近年のアフリカ政治経済」『地理』65(4): 64-70.
- 津田みわ 2016a. 「2017年大統領選挙に向かうケニア: 国政選挙への募る不信」『アフリカレポート』54: 95-100.
- 津田みわ 2016b. 「任期問題に揺れるケニア国会: 紛争後制度構築の課題」『アフリカレポート』54: 50-55.
- 津田みわ 2016c. 「(特集 選挙の風景)揺らぐ国政選挙への信頼: 選挙後暴力後のケニア」『アジア研ワールド・トレンド』251: 30-33.
- 津田みわ 2017. 「土地関連法制度改革を通じた紛争抑止の試みとその限界: ケニアの事例から」武内進一編『冷戦後アフリカ諸国の土地政策』アジア経済研究所、pp.231-257.
- 津田みわ 2018. 「ケニアにおけるイスラーム法適用の歴史と制度: 祝日法およびカジ・コート関連法制度の変遷を中心に」佐藤章編『アフリカ諸国の政治・社会変動とイスラーム: 基礎理論研究会成果報告書』pp.69-84. アジア経済研究所.
- 渡邊祥子 2019. 「非暴力を徹底した若者たち: アルジェリア『暗黒の十年』教訓に」『季刊アラブ』168: 18-20.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 武内進一	4. 巻 117
2. 論文標題 内戦後の土地問題とピネイロ諸原則 ルワンダ・ブルンジの比較から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際法外交雑誌	6. 最初と最後の頁 181, 199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 220
2. 論文標題 冷戦後アフリカの紛争と平和構築の課題 日本のアフリカ外交への示唆	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界平和研究	6. 最初と最後の頁 24, 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chizuko Sato	4. 巻 57
2. 論文標題 Opportunities and Constraints for Black Farming in a Former South African Homeland: A Case Study of the Mooi River Irrigation Scheme, Msinga, KwaZulu-Natal, South Africa	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 African Studies Monographs, Supplementary Issue	6. 最初と最後の頁 147, 174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/233012	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤章	4. 巻 194
2. 論文標題 「アフリカの問題のアフリカによる解決」の両義性もしくは逆説 地域機構による紛争対応能力の向上をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 79, 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田みわ	4. 巻 ISQ201820_013
2. 論文標題 2017年ケニア大統領選挙をめぐる混乱(4)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE スクエア	6. 最初と最後の頁 1, 6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田みわ	4. 巻 ISQ201820_015
2. 論文標題 2017年ケニア大統領選挙をめぐる混乱(5)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 IDE スクエア	6. 最初と最後の頁 1, 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ichiki Tsuchiya	4. 巻 6
2. 論文標題 Socioeconomic Developments and Policymaking in Egypt since the 2000s	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東レビュー	6. 最初と最後の頁 1, 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.24765/merev.Vol.6_E-Art01	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 児玉由佳	4. 巻 36
2. 論文標題 Effects of the 1991 Land Redistribution on Women's Right to Land in the Amhara Region, Ethiopia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上智アジア学	6. 最初と最後の頁 9, 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kudo Yuya	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 What should we use as a measure of malaria infection risk? Implications from infant mortality during the Liberian Civil War†	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of African Economies	6. 最初と最後の頁 1, 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jae/ejz002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takuto Sakamoto, Lloyd Sanders, and Nobu Inazumi	4. 巻 55905
2. 論文標題 Scale-Free versus Multi-Scale: Statistical Analysis of Livestock Mobility Patterns across Species	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 bioRxiv	6. 最初と最後の頁 1, 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1101/055905	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤章	4. 巻 56
2. 論文標題 コートジボワール新憲法の意義をめぐって 制度的側面と政治的側面	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 1, 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 巻 No.261
2. 論文標題 南アフリカにおける犯罪動向の推移と治安対策	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 16, 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 巻 No. 262
2. 論文標題 南アフリカ/ムムシ・マイマネ 躍進続ける若き野党党首	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 巻 No. 264
2. 論文標題 看護師の国際移動 アフリカの事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 22, 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takuto Sakamoto and Hiroki Takikawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Cross-National Measurement of Polarization in Political Discourse: Analyzing Floor Debate in the U.S. and the Japanese Legislatures	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 2017 IEEE International Conference on Big Data	6. 最初と最後の頁 3022, 3028
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 土屋一樹	4. 巻 5
2. 論文標題 スイースイー政権はエジプトに持続的成長をもたらすか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中東レビュー	6. 最初と最後の頁 94, 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 54
2. 論文標題 アフリカの「三選問題」 ブルンジ、ルワンダ、コンゴ共和国の事例から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 73, 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 39
2. 論文標題 アフリカの土地法改革と大規模土地取引	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際農林業協力	6. 最初と最後の頁 2, 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 38
2. 論文標題 ガバナンスで読み解く紛争と和解	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 42, 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 武内進一	4. 巻 253
2. 論文標題 アフリカ政治の現状と課題： 紛争とガバナンスの視点から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジアワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 28, 31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田みわ	4. 巻 54
2. 論文標題 2017年大統領選挙に向かうケニア：国政選挙への募る不信	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 95, 100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田みわ	4. 巻 54
2. 論文標題 任期問題に揺れるケニア国会：紛争後制度構築の課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 50, 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田みわ	4. 巻 251
2. 論文標題 揺らく国政選挙への信頼：選挙後暴力後のケニア	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジアワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 30, 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤章	4. 巻 55
2. 論文標題 イスラーム主義武装勢力と西アフリカ：イスラーム・マグレブのアル=カーイダ (AQIM) と系列組織を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 1, 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 巻 54
2. 論文標題 2016年南アフリカ地方選挙 大都市自治体を巡る攻防	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アフリカレポート	6. 最初と最後の頁 135, 141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 巻 253
2. 論文標題 南アフリカの移民・難民問題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 20, 23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Joeri Smits, Yibekal Tessema, Takuto Sakamoto, and Richard Schodde	4. 巻 46
2. 論文標題 The Inequality-Resource Curse of Conflict: Heterogeneous Effects of Mineral Deposit Discoveries	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 WIDER Working Paper	6. 最初と最後の頁 1, 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Takuto Sakamoto and Mitsugi Endo	4. 巻 -
2. 論文標題 Agent-Based Simulation of State Collapse and Reconstruction: Analyzing the Past and Future of Somalia	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Social Science Research Network (SSRN)	6. 最初と最後の頁 1, 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.2775541	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阪本拓人	4. 巻 253
2. 論文標題 アフリカのいまを生きる牧畜民	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アジ研ワールド・トレンド	6. 最初と最後の頁 6, 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 15件)

1. 発表者名 武内進一
2. 発表標題 1990年代以降の土地法改革はアフリカに何をもたらしたか
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Land registration in Rwanda: The motivations and consequences
3. 学会等名 African Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shoko Watanabe
2. 発表標題 The Ambivalence of First Oriental Orientalists: Examples from French Colonial North Africa
3. 学会等名 Africa-Asia 'A New Axis of Knowledge' Second Edition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 Resource Management and Political Power in Rural Africa
3. 学会等名 Africa-Asia 'A New Axis of Knowledge' Second Edition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤千鶴子
2. 発表標題 南アフリカへのコンゴ人の混在移動 複合的な移動目的と移動経路
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chizuko Sato
2. 発表標題 Land Tenure Reform in South Africa: Traditional Leadership, CLaRA, and 'Living' Customary Law
3. 学会等名 Africa-Asia 'A New Axis of Knowledge' Second Edition (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 児玉由佳
2. 発表標題 エチオピア女性の湾岸諸国への労働移動 その動機とプロセス
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阪本拓人
2. 発表標題 国際社会における脅威認識の動態：自然言語処理と機械学習による分析
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 湯川拓・阪本拓人
2. 発表標題 選挙監視をめぐる国際政治と国内政治
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyo Aminaka
2. 発表標題 Genesis of Ideas for Development: Revivial of Colonial Projects and Rural Transformation in Angola
3. 学会等名 イタリア・アフリカ学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyo Aminaka
2. 発表標題 Impmementation of Land Law and Political Dynamics in Mozambique
3. 学会等名 Africa-Asia 'A New Axis of Knowledge' Second Edition（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akiyo Aminaka
2. 発表標題 Impementation of Land Law and Political Dynamics in Mozambique
3. 学会等名 African Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahiro Fukunishi and Tomohiro Machikita
2. 発表標題 Vocational Education and Employment Outcomes in Ethiopia: Displacement Effects in Local Labor Markets
3. 学会等名 Annual Bank Conference on Africa (World Bank and Center for Global Development, Stanford University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武内進一、Raymond Lumbuenamo, Guy-Verlain Tshimanga wa Tchimanga
2. 発表標題 人口希薄地帯における土地囲い込み コンゴ民主共和国西部の事例
3. 学会等名 日本アフリカ学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武内進一
2. 発表標題 内戦後の土地問題と国際規範 ルワンダ、ブルンジの事例から
3. 学会等名 国際法学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武内進一（西崎文子、遠藤乾、吉川元、川島真とともに登壇）
2. 発表標題 デモクラシーと世界秩序
3. 学会等名 日本国際政治学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shinichi Takeuchi
2. 発表標題 African Enclosure in the Context of Land Law Reforms
3. 学会等名 African Studies Association（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shoko Watanabe
2. 発表標題 “Nationalists, Transnational Mobilization, and Popular Movements: Tunisian Volunteers for Palestine in 1948” in the Panel “Colonial Regimes and Anti-Colonial Revolts between Maghrib and Mashriq, 1920-1950”
3. 学会等名 Middle East Studies Association of North America, 51st Annual Meeting（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akiyo Aminaka
2. 発表標題 Developmentalism flew over the Ideologies: Reproducing 'kibbutz' in colonial and post-colonial Lusophone Africa
3. 学会等名 Angola: Past Legends, Present Challenges, Lisbon University, Center of History, Lisbon, 14 November 2017（国際学会）
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Akiyo Aminaka
2 . 発表標題 Signs of Spontaneous Democratization in Mozambique: Special Focus on the Opposition Party and its Ex-Soldiers
3 . 学会等名 7th African Forum, 'African Potential ' Rhodes University, Grahamstown, South Africa, 25 November 2017 (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Akiyo Aminaka
2 . 発表標題 Protecting the Vestige of Maritime Empire in the Post-War World: Reinforced Mobilization of African Soldiers in Portuguese Colonies
3 . 学会等名 "Colonial Mobilization in Africa and Asia during the Second World War: soldiers, labourers and women" Kyoto University, Kyoto, Japan, 23 March 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yuya Kudo
2 . 発表標題 Malaria Infection and Infant Mortality during the War: Evidence from Liberia
3 . 学会等名 CSAE Conference 2017: Economic Development in Africa (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Sato, Chizuko
2 . 発表標題 The Opportunities and Constraints of Black Farming in a South African Ex-homeland: A Case Study of the Mooi River Irrigation Scheme, Msinga, KwaZulu-Natal
3 . 学会等名 Land, the State and Deconising the Agrarian Structure in Africa: A Colloquium in Honour of Prof. Sam Moyo (国際学会)
4 . 発表年 2016年

〔図書〕 計28件

1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 185 (181, 199)
3. 書名 “Development and Developmentalism in Post-genocide Rwanda”. Edited by Yusuke Takagi, Veerayooth Kanchoochat, and Tetsushi Sonobe, Developmental State Building: The Politics of Emerging Economies.	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 315 (43, 54)
3. 書名 「紛争」落合雄彦編著『アフリカ安全保障論入門』	

1. 著者名 Kirikoshi, H., Matsunami, Y. and Takeuchi, S. (eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 African Studies Center; Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 202
3. 書名 ASC;TUFS Working Papers 2018 “Development, Migration, and Resources in Africa”.	

1. 著者名 Shinichi Takeuchi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 African Studies Center; Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 202 (63, 79)
3. 書名 “Land and power in Africa: The effects of recent land reform”. In ASC;TUFS Working Papers 2018 “Development, Migration, and Resources in Africa”.	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本国際政治学会	5. 総ページ数 (1, 10)
3. 書名 「日本の国際政治学におけるアフリカ」日本国際政治学会 制度整備・自己点検タスクフォース報告書『日本の国際政治学 日本国際政治学会における研究の系譜と特徴』	

1. 著者名 渡邊祥子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 315 (76, 87)
3. 書名 「『アラブの春』」落合雄彦編著『アフリカ安全保障論入門』	

1. 著者名 Chizuko Sato	4. 発行年 2019年
2. 出版社 African Studies Center; Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 202 (103, 121)
3. 書名 "Land Tenure Reform in South Africa: Traditional Leadership, CLaRA, and 'Living' Customary Law" In ASC;TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa".	

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 315 (27, 38)
3. 書名 「民間軍事・警備会社」落合雄彦編著『アフリカ安全保障論入門』	

1. 著者名 宮本 正興、松田 素二 (武内進一、佐藤章執筆)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 784
3. 書名 改訂新版 新書アフリカ史	

1. 著者名 Kumiko Makino and Naoko Tsuyama	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Pan African University Press	5. 総ページ数 1749 (1623, 1651)
3. 書名 Kumiko Makino and Naoko Tsuyama "The anti-apartheid solidarity movement in Japan: Actors, networks and Issues," South African Democracy Education Trust ed., The Road to Democracy in South Africa, Volume 3, International Solidarity Part 3, Austin: Pan African University Press 2018	

1. 著者名 Akiyo Aminaka	4. 発行年 2018年
2. 出版社 African Studies Center; Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 202 (123, 142)
3. 書名 "Implementation of Land Law and Political Dynamics in Mozambique" In ASC;TUFS Working Papers 2018 "Development, Migration, and Resources in Africa".	

1. 著者名 武内進一 (編)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315
3. 書名 現代アフリカの土地と権力	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315 (3, 34)
3. 書名 「アフリカにおける土地政策の新展開と農村変容」武内進一編『現代アフリカの土地と権力』	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315 (259, 291)
3. 書名 「土地政策と農村変容 ルワンダ、ブルンジ、コンゴ民主共和国西部」武内進一編『現代アフリカの土地と権力』	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315 (293, 310)
3. 書名 「近年のアフリカにおける土地改革と農村変容をどうとらえるか」武内進一編『現代アフリカの土地と権力』	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 271 (53, 78)
3. 書名 「政治 長期の視点でアフリカを理解する」遠藤貢・関谷雄一編『社会人のための現代アフリカ講義』	

1. 著者名 津田みわ	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315 (231, 257).
3. 書名 「土地関連法制度改革を通じた紛争抑止の試みとその限界：ケニアの事例から」武内進一編『冷戦後アフリカ諸国の土地政策』	

1. 著者名 津田みわ	4. 発行年 2018年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 99 (69, 84)
3. 書名 「ケニアにおけるイスラーム法適用の歴史と制度：祝日法およびカジ・コート関連法制度の変遷を中心に」佐藤章編『アフリカ諸国の政治・社会変動とイスラーム：基礎理論研究会成果報告書』	

1. 著者名 佐藤千鶴子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315 (139, 171)
3. 書名 「南アフリカにおける慣習的土地保有権改革をめぐる争点と課題」武内進一編『現代アフリカの土地と権力』	

1. 著者名 Sato, Chizuko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Brill Publishers	5. 総ページ数 286 (199, 220)
3. 書名 "Khoisan Revivalism and Land Question in Post-Apartheid South Africa," Femke Brandt and Grasián Mkodzongi eds., 2018, Land Reform Revisited: Democracy, State Making and Agrarian Transformation in Post-Apartheid South Africa,	

1. 著者名 児玉由佳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315 (107, 137)
3. 書名 農村部を領域化する国家 エチオピア・アムハラ州農村社会の土地制度の事例」武内進一編 『冷戦後アフリカ諸国の土地政策』	

1. 著者名 網中昭世	4. 発行年 2017年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 315 (201, 229)
3. 書名 「モザンビークにおける土地法の運用と政治力学」武内進一編 『現代アフリカの土地と権力』	

1. 著者名 Makino, Kumiko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 xxiii + 290 (247, 270)
3. 書名 "Travelling for Solidarity: Japanese Activists in the Transnational Anti-apartheid Movement," Cornelissen, S. and Mine, Y. Eds, Migration and Agency in a Globalizing World: Afro-Asian Encounters	

1. 著者名 西崎文子・武内進一	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 208
3. 書名 紛争・対立・暴力 世界の地域から考える	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2016年
2. 出版社 地域研究コンソーシアム・京都大学地域研究統合情報センター・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 64 (34, 39)
3. 書名 「アフリカの国境は紛争の主因か？」黒木英充・塩谷昌史・柳澤雅之編『教会・境域への挑戦と「地域」』	

1. 著者名 武内進一	4. 発行年 2016年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 254
3. 書名 冷戦後アフリカの土地政策 中間成果報告	

1. 著者名 網中昭世	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392 (292, 310)
3. 書名 「南アフリカ 「虹の国」への道のり」木田剛、竹内幸雄編『安定を模索するアフリカ』	

1. 著者名 渡邊祥子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 390 (191, 200/ 321, 326)
3. 書名 私市正年・浜中新吾・横田貴之（編著）中東・イスラーム研究概説：政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論『』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

【書籍】『ASC-TUFS Working Papers 2018』
<http://www.tufs.ac.jp/asc/activities/publications/190308ASCTUFSWorkingPapers2018.html>
 【Book Publication】ASC-TUFS Working Papers 2018
<http://www.tufs.ac.jp/asc/english/activities/publications/190308ASCTUFSWorkingPapers2018.html>
 冷戦後アフリカの土地政策
<http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Project/2016/b101.html>
 現代アフリカの土地政策
<http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Sousho/631.html>
 アフリカの政治社会変動とイスラーム
<http://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Project/2017/2017140010.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡邊 祥子 (Watanabe Shoko) (20720238)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター中東研究グループ・研究員 (82512)	
研究分担者	佐藤 千鶴子 (Sato Chizuko) (40425012)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センターアフリカ研究グループ・研究員 (82512)	
研究分担者	佐藤 章 (Sato Akira) (60450491)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・主任調査研究員 (82512)	
研究分担者	津田 みわ (Tsuda Miwa) (70450468)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センターアフリカ研究グループ・主任研究員 (82512)	